

第5学年国語科書写（硬筆）学習指導案

日時 平成23年11月11日（金） 2校時
児童 5年2組 男19名女18名計37名
指導者 片方元昭

1 単元名 文字の組み立て方と穂先の動きを確かめよう（光村図書P18～P23）
2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまで毛筆の学習を行ってきた。児童は、毛筆で文字を書く時に、穂先はどこを通るのか考えながら書いたり、一画目から最終画まで筆脈が続くように気をつけて書いたりすることができるようになってきた。しかし、毛筆を使って思うような字形に整えて書くことができなかつたり、毛筆で学習したことを日常の文字を書く活動に生かすことができなかつたりしている児童が見られる。

7月に行った意識調査では、「書写が好きですか」の質問に対し、半数の児童が「はい」と答えた。書写が好きな理由として、「うまく書くことができるから」「だんだん字がうまくなるのがうれしいから」という理由を挙げている。一方、書写が好きではない理由として、「うまく書くことができないから」という理由を挙げている。これらことから、学習したことを文字に表すことができた時に満足感を感じている児童が見られるとともに、うまく書きたいという思いがあるのに、その思いを文字に表現することができず、書写の学習の難しさを感じている児童も多いこともうかがえる。

(2) 教材について

学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の書写に関する事項は、「ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと」「イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと」「ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと」である。本単元では、毛筆で、左払いや折れの穂先の動きを確かめるとともに、たれのある文字やかまえのある文字の組み立て方を学習する。そして、硬筆で、左右上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて漢字を書く学習を行う。穂先の動き方だけでなく、文字の組み立て方について注目させながら理解させていくことは、構造上複数に分割可能な文字（複合文字）の漢字を正しく書く上での基礎・基本となる。

(3) 指導にあたって

本単元では、構造上分割可能な文字（複合文字）における文字の組み立て方と穂先の動きを確かめる学習を行う。学習を進めるうえで、次のことに留意しながら指導にあたっていく。

- ・文字を分解した分解文字を提示し、文字の組み立て方に着目させるようにする。
- ・穂先の動きを意識させるために、視聴覚機器を効果的に使うとともに、お互いに穂先の動きに着目して見合うなどの学習活動を行う。
- ・文字の組み立て方や穂先の動きに着目して練習できるようなワークシートや練習用紙を段階的に活用する。
- ・日常的な書写力の向上を図るために、毛筆で学習したことを硬筆で確認し、文字を書く時に学習したことを生かそうとする意欲をもたせるようにする。

3 単元の目標

【毛筆】◎たれ、かまえのある文字の組み立て方を理解して書くことができる。

【硬筆】◎左右、上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。

4 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】 ・たれやかまえのある文字、左右・上下の組み立て方の特徴を知ろうとしている。

【知識・理解】

・たれのある文字では下の部分を右にずらして書くことや、かまえのある文字では内側をかまえの中に収めて書くことを理解している。

・左右・上下の組み立て方について理解している。

【技能】

・左払いや折れの穂先の動きに気をつけて書いている。

・左右・上下の組み立て方に気をつけて書いている。

5 単元の指導計画（7時間）

(1) 本単元における学習の見通しをもつとともに、たれのある文字の組み立て方について理解し、「草原」を毛筆で書く。 …1時間

(2) たれのある文字の組み立て方や左払いの穂先の動きを確かめ、「草原」のまとめ書きをし、硬筆で確かめる。 …2時間

(3) かまえのある文字の組み立て方を理解し、「仲間」を毛筆で書く。 …1時間

(4) かまえのある文字の組み立て方や左払いの穂先の動きを確かめ、「仲間」のまとめ書きをし、硬筆で確かめる。 …2時間

(5) 左右・上下の組み立て方について気をつけて、字形を整えて漢字を書く。 …1時間

（本時）

6 本時の指導（7 / 7）

- (1) 目標
左右・上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて漢字を書くことができる。
- (2) 評価規準
【関心・意欲・態度】学習したことを生かして、左右・上下の組み立て方のある漢字を探して書こうとしている。
【知識・理解】左右の部分で幅に違いがあることや、上下の部分で高さの違いがある組み立て方を理解している。
- (3) 研究に関わって
本時は「まとめる・生かす」場の工夫に重点をおいた指導を行う。
・一般化を図る学習活動として、既習の漢字から上下・左右の組み立て方のある漢字について、幅や高さの違いごとに分類して書く活動を行う。
- (4) 展開

段階	学習活動	教師の支援	準備・評価(◎)
15	<p>気づく 試書・課題把握・基準理解</p> <p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">左右や上下の組み立て方に気をつけて書こう。</p> <p>3 基準を理解する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><基準> ・左右の部分のはばのちがい ・上下の部分の高さのちがい</p>	<p>・たれ、かまえのある文字の組み立て方について確認する。</p> <p>・学習計画に従って、本時の学習課題を確認する。</p> <p>・「枝」「朝」「引」と、「答」「思」「然」について部分ごとに色分けしたカードを提示し、左右の幅や上下の高さに違いがあることに気づかせる。 ・点画の形や方向も変化することを確認する。 ・「球」「伝」「雪」「委」を提示し、上下や左右を空けて書く文字もあることを確認する。</p>	<p>・拡大コピー</p>
10	<p>できる 練習・批正</p> <p>4 練習・批正をする。 ・基準を意識して練習する。</p>	<p>・左右・上下の組み立て方を意識させ、「枝」「朝」「引」「答」「思」「然」の漢字を練習させる。 ・上下や左右を空けることを意識させ、「球」「伝」「雪」「委」の漢字を練習させる。 ・毛筆の学習を生かして、点画のつながりや、払いや折れの書き方にも気をつけて書いている児童を見つけて、全体に広めるようにする。</p>	<p>・練習用紙 ・鉛筆 ・フェルトペン</p> <p>◎左右の部分で幅に違いがあることや、上下の部分で高さの違いがある組み立て方を理解しているか。</p>
20	<p>まとめる・生かす 清書・評価・一般化</p> <p>5 一般化を図る。</p> <p>6 評価・反省をする。</p>	<p>・一般化を図るために、既習の漢字から上下・左右の組み立て方のある漢字を示し、学習したことを生かして、幅や高さの違いごとに分類させ、練習用紙に書かせるようにする。 ・早くできた児童には、示した漢字以外にも既習の漢字や名前などから探させるようにする。</p> <p>・書いた文字を相互評価させる。</p> <p>・本単元の学習を通して、文字の組み立て方を確かめながら漢字を書くことができたかどうか振り返らせ、今後生かそうとする意欲をもたせる。</p>	<p>◎学習したことを生かして、左右・上下の組み立て方のある漢字を探して書こうとしているか。</p> <p>・鉛筆 ・評価カード</p>